

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

中学校 第1学年 「国語（教育出版）」

98時間（70%）

| 週 | 重点に置く指導事項 | 単元名 | 小単元名 | 時間数 | 留意点 |
|----|---------------------------------------|------------|---------------------------------|-----|---|
| 1 | 伝イ（ア） Cア Aオ Bア | 言葉と出会う | ふしぎ／声を出そう | 1 | ・詩を読んだ後、自分が不思議に思うことを発表させ、それぞれの思いで詩を朗読させる |
| | | | 感想を伝え合おう 記録をしよう | 2 | ・国語科の学習のオリエンテーションとして、それぞれの項目のポイントを指導する |
| 2 | Cアウ Bアイ | 一 言葉で意味づける | 音を追いかけて | 3 | ・場面や登場人物の心情や行動の変化に着目して、内容を読み取る方法を指導する |
| | | | 体験したことを文章にする | 4 | ・情報収集の手段としてマッピングを例に挙げ、自分の体験を時間の順序にそって文章にすることを中心の活動とする（30ページを参考にする） |
| 3 | Aア | | お気に入りの一品を紹介する | 1 | ・話す内容と項目を提示し、それらを踏まえたスピーチをさせる（紙面での交流も可能） |
| 4 | Cアイ Aイウ 伝イ（ア） 伝ウ（アイ） | 二 関係を見いだす | 笑顔という魔法 | 4 | ・語句の意味や接続語、文末の表現に着目して、要旨を捉えることを中心の活動とする |
| | | | フリップを用いて報告する | 4 | ・事実と意見との関係に注意した話の構成、相手にわかりやすい語の選択を中心に指導する（状況によって時期を入れ替える） ・報告する活動の前に、内容をおさえるとよい |
| | | | 言葉の小窓1 日本語の音声 漢字の広場1 漢字の部首 | 1 | ・「練習」は家庭での課題とし、後日確認する |
| 5 | Cカ Cカ 伝イ（イ） | 三 世界をひらく | 【読書への招待】ベンチ | 2 | ・一読した後、「みちしるべ」を参考に本から必要な情報を集める方法を中心に指導する ・学校図書館を活用し、身近な本で帯（もしくはポップ）を作成させる（本を読むのは家庭の課題） |
| 6 | Bウ | | 写真と言葉が生み出す世界 | 3 | ・文章と写真を組み合わせる効果を考えさせる ・メディアリテラシーについて理解させる |
| 7 | 伝イ（エ） 書写 | | 芸術作品の鑑賞文を書く | 4 | ・美術の教科書や学校図書館にある本から作品を選ばせ、特徴（根拠）を明確にして書かせる |
| | | | 文法の小窓1 言葉の単位 | 1 | ・223ページの解説を参考に、文法とは何かをおさえた上で、言葉の単位を指導する（→参考：県教委オンラインサポート授業） ・「確かめよう」は家庭での課題とし、後日確認する |
| | | | 楷書 | 3 | ・楷書の筆遣い、字形、文字の大きさ、配列、仮名との調和の指導を中心に指導する |
| 8 | 伝イ（オ） Cウエ 伝イ（ウ） | 四 表現に立ち止まる | 河童と蛙 | 1 | ・表現技法をおさえ、詩の内容を生かすように朗読させる |
| 9 | Bイエ 伝イ（イ） 伝ウ（ア） | | オツベルと象 | 5 | ・作品の展開や表現の特徴について自分の考えをもたせることを中心の活動とする ・語句の意味、擬音語・擬態語の効果について指導する |
| | | | 行事などの案内文を書く | 3 | ・案内文の基本的な形式をおさえ、学校行事等と関連させて書かせた後、視点を明らかにして推敲させることを中心の活動とする |
| | | | 漢字の広場2 画数と活字の字体 | 1 | ・「練習」は家庭での課題とし、後日確認する |
| | | | 言葉の小窓2 日本語の文字 | - | ・書写の仮名の指導と関連させて指導する |
| 10 | 書写 | | 行書① | 3 | ・行書とは何かをおさえ、丸み、点画の連続を中心に指導する（毛筆） （→参考「県教委オンラインサポート授業」） |
| 11 | 伝ア（アイ） Cウ 伝ア（ア） | 五 古典と出会う | 古典の扉を開く | 3 | ・古典には様々な作品があることをおさえ、歴史的仮名遣いのきまりを理解させる |
| 12 | Cウ 伝ア（ア） Cカ 伝ア（イ） | | 物語の始まり | 3 | ・「古典の仮名遣い・古典の言葉」を確認しながら、朗読することを中心の活動とする |
| | | | 故事成語 | 3 | ・故事成語は生活の中に生き続けていることをおさえ、漢文独特の言い回しに読み慣れる ・いくつかの故事成語を提示し、自分の体験と結びつけた短文を書くことを中心の活動とする |
| | | | 【読書への招待】蜘蛛の糸 | 2 | ・一読し、あらすじを捉えた後、我が国を代表する近代作家について理解させる ・学校図書館を活用し、近代小説を選び、簡単な感想を書かせる（本を読むのは家庭の課題） |
| 13 | 書写 | | 行書② | 2 | ・点画の方向や形の変化を中心に指導する |
| 14 | Cアイ Cイ Bウ Cイ Bイ | 六 説明を比べる | 文章の構成や表現の特徴を捉えて読む 1 電子レンジの発想 | 2 | ・筆者の説明の仕方に重点を置いて指導する |
| | | | 2 言葉のゆれを考える（※1） | 2 | ・グラフと文章を照らし合わせながら、その関連を的確に捉えるよう指導する ・「ら抜き言葉」について自分の考えを書かせる |
| | | | 3 花の形に秘められたふしぎ | 3 | ・3つの教材文を「構成・展開・表現」について分類し、共通点や相違点をまとめることを中心の活動とする |

| | | | | | |
|----|-------------|-----------|------------------|---|---|
| 15 | Aエ | | 友達のスピーチを聞く | 4 | ・観点にそって、スピーチを聞き、よりより聞き方について考えることを中心の活動とする |
| 16 | Bオ | | 意見文を読み合う | 3 | ・(※1)で書いた文章を基に、具体例を入れた400字程度の文章を書き、互いの文章を読み合い、よいところを中心に交流させる |
| | 伝ウ(アイ) | | 漢字の広場3 漢字の音と訓 | 1 | ・「練習」は家庭での課題とし、後日確認する |
| 17 | 伝イ(2年) | | 文法への小窓2 文の成分 | 2 | ・226ページ以降の解説を参考に、文の成分を指導する(→参考:県教委オンラインサポート授業) ・「確かめよう」は家庭での課題とし、後日確認する |
| | Cエオ | 七 発想を広げる | 言葉がつかなく世界遺産 | 4 | ・構成や展開に注意して読み、筆者のものの見方や考え方を捉えた上で、言葉のはたらきについて自分の考えをまとめさせる |
| 18 | B | | 図表を用いて報告する | 4 | ・1年間の復習とし、生徒の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する |
| 19 | Cウ 伝イ(オ) | 八 考えを共有する | 四季の詩 | 1 | ・それぞれの詩が描くイメージを想像し、一番気に入った詩を朗読する |
| | 伝イ(エ) | | 文法の小窓3 単語のいろいろ | 2 | ・234ページ以降の解説を参考に、単語の種類を指導する(→参考:県教委オンラインサポート授業) ・「確かめよう」は家庭での課題とし、後日確認する |
| | 伝ウ(アイ) | | 漢字の広場4 熟語の構成 | 1 | ・「練習」は家庭での課題とし、後日確認する |
| 20 | Cウエオ | | 少年の日の思い出 | 5 | ・語り手に着目して読ませ、登場人物の考え方や表現の特徴について、自分の考えをもたせることを中心に指導する |
| 21 | Aオ | | アイデアを出して話し合う(※2) | 3 | ・身近なテーマを提示し、話し合いの話題や方向を的確にとらえることを重点に置いて指導する |
| | 書写 | | 一年間のまとめ | 2 | ・(※2)で話し合った漢字を行書で書くのもいい |

【時間数の精選方法(例)】

○3領域のどの指導事項に重点を置くのかを明確にする

・各領域ともに、複数の指導事項を万遍なく指導するのではなく、この教材では、どのような力(指導事項)を身につけさせるのかを明確にすることで、授業時間の削減が可能となります。例えば、単元1「音を追いかけて」では、指導事項ウの「場面の展開や登場人物の描写」を中心に指導し、単元4「オツベルと象」では、指導事項オ「文章に表れているものの考え方をとらえ、自分のものの考え方を広げる」ために、互いの意見を交流させる指導を行います。「書くこと」、「話すこと・聞くこと」も同様の考え方で。

○小単元をまとめて指導したり、家庭での課題にして補ったりする

・「漢字の広場」「言葉の小窓」「文法の小窓」については、まず、指導内容が既習事項なのか、新しい内容なのかを確かめます。新しい内容の場合、あわせて指導できる内容があるかを考えます。練習問題については、教科書巻末の問題やワーク等を家庭の課題とすることで、授業時間の削減が可能となります。なお、家庭での課題とする場合、生徒の達成状況を把握し、個への支援が必要なこともあります。

○読書単元は学校図書館を活用し、言語活動と結びつけ、読書生活を豊かにする

・読書教材については、指導事項が「読むこと」カ(※)になりますので、詳細な読みは行わないのが一般的です。言語活動例を参考に、読書と言語活動を結びつけ、3領域の資質・能力を向上させるのが望ましいとされます。また、「読書への招待」、「読んでみよう」では、学校図書館を活用し、家庭での読書を促し、幅広い読書をさせることが可能となります。

○書写は取り立てた指導だけではなく、「書くこと」と関連させた指導も行う

・書写の指導については、中学1年生では、20単位時間程度行うものとあります。教育出版では、鑑賞文を書いたり報告書を作成したりする「書くこと」の領域の学習において、例えば、原稿用紙や報告書の表紙の書き方を通して、文字の大きさや配置・配列といった指導事項をおさえることが可能です。(本資料では、書写に取り立てた指導を10時間(50%)で作成しています。)

○感染症予防対策を踏まえた学習活動の工夫を行う

・教材文等の音読は、マスクをつけることや大きな声を出さないことを指示します。ペアや少人数での話し合い活動も、マスクや声の大きさなどを配慮して行いますが、教室の状況や生徒の実態によっては当分の間控えた方がよいでしょう。また、スピーチやプレゼンテーションなど、相手に向けて話す活動は、一定の距離をとって行います。インタビューなどのフィールドワークは、書くことの「情報の収集」と関連させるなど、単元の組み替えを行います。

※本資料は、中学校学習指導要領(平成20年9月)によって作成しています。